

保護者様・地域の皆様

世田谷区立八幡山小学校
 学校関係者評価委員会委員長 綿拔 千春
 委員 佐藤 文宏
 青木 昭文
 小野寺里美
 田中 愛
 大津 美俊

学校関係者評価報告書

柔らかな日ざしが、日一日と暖かさを加える季節となりました。

このたびはご多用のところ、学校関係者評価アンケートにご協力頂き、誠にありがとうございました。集計結果、各行事のアンケートの声、学校の様子、教職員からの聞き取りを基に、八幡山小学校令和6年度の重点目標に沿って以下のように評価しましたので、御報告いたします。

令和6年度学校関係者評価アンケート調査の概要

- ・調査実施日 令和6年11月
- ・調査対象者と回収率 児童(5、6年)149名/100% (前年度92%)
 保護者329名/61% (前年度41%) 地域38名

重点目標1 キャリア・未来デザイン教育の実現

☆ 「キャリア教育」を推進し、人間関係や社会を育成する力、課題に対応する力、論理的な思考力や自ら主体的に判断する力などを育てていく。

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)
自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある	49% → 81%	先生は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている	54% → 47%
目標をもち、その実現に向けて努力している	75% → 78%	学校は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している	60% → 58%

◎ 児童アンケートでは、自ら将来のことについて考える授業の項目において大きく上昇した。6年生へは、学校支援コーディネーターを中心に、ゲストティーチャーを招き、様々な職種について話を聞く授業を行っており、自分自身の生き方や将来について考える機会をつくった。5年生は、社会科見学で、ANAの見学に行くことや、総合的な学習の時間を使って、京都の人形店をゲストティーチャーとしてキャリア教育を行った。また、道徳の授業やキャリアパスポートを活用して近い将来のことについて目標を立てていた。授業やキャリアパスポートなどを通して、生き方や将来のことを考える時間を認識していると考えられる。

◎ 保護者アンケートにおいては、昨年度に引き続きキャリア教育についての認識が低いといえる。学校支援コーディネーターが便りを出して、授業の様子を発信しているが、評価につながっていないため、今後参観できる機会を増やし、キャリア教育について理解を深めてもらう必要だと考える。また保護者を巻き込んだ授業展開なども考えていく必要がある。

重点目標2 教育DXの推進

☆ GIGAスクール構想の下、一人一台タブレット端末を計画的に有効活用していく。また、デジタル・シティズンシップを身に付けるために、ルールを徹底するだけでなく、自らが考え行動できるよう計画的な指導を行う。

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)
めあてについて、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業で取っている	86% → 89%	子どもの考えることや、課題を解決することを大切に授業を行っている。	77% → 76%

黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	82% → 82%	黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	75% → 65%
授業では話し合ったり発表したりする機会がある。	93% → 86%	子どもの話し合いや発表の機会がある。	84% → 80%
映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	87% → 88%	映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	71% → 73%
授業で分からないことは、分かるまで解決しようとする。	62% → 73%		

- ◎ 保護者アンケートの「タブレット活用」の項目では肯定的回答が、前年と変わらなかった。一人一台配付されたタブレットの活用場面が増え、活用方法も多岐にわたってきているため、今後、学校公開など、保護者が授業を参観する中で、さらに活用の工夫を図ることで、さらに肯定的回答が高くなることが予想される。
- ◎ 児童アンケートの「タブレットの活用」の項目では、肯定的回答が昨年度と比べ、あまり変わらなかった。児童のタブレット活用能力が定着してきていると考えられる。授業でタブレットを活用する機会が増えたり、教員のスキルがアップしたりしているが、子どもたちも当たり前のようにタブレットを使用しているため、このような結果になったと考えられる。今後は、学校でのルールに加え、ネットリテラシーを自ら考え行動できる児童の力を育成する。また、「自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業で取っている」と、「授業で分からないことは、分かるまで解決しようとする」項目は、昨年度より上昇した。自分の考えをじっくりと深めていることが分かる。一方で、「話し合ったり発表したりする機会がある」の項目は昨年度よりも下がった。互いの意見を伝え合い考える授業の展開が必要である。

その他

【思いやりのある子ども】

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)	地域アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)
すすんであいさつができる	67% → 83%	子どもたちはよくあいさつできる	67% → 74%	子どもたちはよくあいさつができる	79% → 80%
きまりを守って行動している	76% → 85%	ルールを守る指導をしている	74% → 72%	交通ルールを守っている	88% → 72%
交通ルール（自転車運転）を守っている	81% → 91%				

- ◎ 相手とのコミュニケーションの始まり、他者理解を深める第一歩を児童に身に付けさせたいという思いから、「あいさつができる」という項目を指標としている。学校・家庭・地域が連携しながら取り組んでいくことが大切である。昨年度に比べ、児童アンケート、保護者、地域共に上昇した。特に児童は、昨年度よりも意識的にあいさつを行っていたことが分かる。年3回のあいさつキャンペーンだけでなく、学年ごとのあいさつ週間の効果とも考えられる。
- ◎ ルールについては、こちらも児童は、ルールを守っているという意識をもっていることが分かる。しかし、保護者アンケートから「ルールを守る指導をしている」の項目は2ポイント下降し、地域の「交通ルールを守っている」の項目においては、15%も下降した。毎月の学年朝会や、毎日の朝の会、帰りの会などにおいて交通ルールなどの指導を継続的に行っている。しかし指導が児童の行動に反映されていないため、肯定的評価が低くなっている一因になっていると考えられる。児童たちが守っていると思っていることも、外部から見るとさらなる向上が必要であると考えられる。具体的に危険な行動や守るべきルールについて継続して指導していくとともに、今後は、保護者会や学校公開などで、児童への指導を保護者に発信し、共通理解を図り、協力して児童を育成していくことが必要だと考える。

【体も心も健やかな子ども】

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)
運動することが好き	68% → 79%	体力の向上や健康な生活に取り組んでいる	74% → 76%

- ◎ 児童の肯定的評価はこの3年間で大きく伸びた。コロナ禍が明け、体を動かす機会が増えたことが一因と

考えられる。また、今年度は、校内研究で体育科に取り組み、様々な種類の運動を児童に推奨したことでそれぞれに合った運動を見付ける要因にもなったと考えられる。今後も運動する機会を意識的に増やしていくことが大切である。何かの競技をすることだけが運動ではなく、体を動かすことを運動と捉え、体を動かすことの意義と情報を伝えていくようにする。また、地域にボール遊びができる工夫なども期待したい。

【学校運営・教職員・友人関係】

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)
先生はていねいに教えている	85% → 93%	教職員はていねいに指導している	89% → 87%
先生たちに相談できる	67% → 66%	相談しやすい	78% → 74%
先生はだれに対しても公平である	65% → 79%	子どもと先生とのコミュニケーションがとれている。	85% → 76%
		校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	81% → 82%
相談しやすい友達がいる	82% → 88%		

- ◎ 児童の「丁寧に教えている」項目と、「誰に対しても公平である」という項目が昨年度と比べ大きく上昇した。これは、児童と教員との信頼関係が上がっていると考えられる。しかし、一方で、「相談できる」項目では、昨年度同様、低い評価となった。保護者の「子どもたちと先生とのコミュニケーションがとれている」の項目も大きく下がった。要因としては、「先生は忙しい」と思っている児童や、「先生＝担任」と考えている児童がいるのではないかと意見がでた。解消のためには、担任がクラスの児童と自由に過ごせる時間を確保するための人員確保や、相談するのは担任だけではなく学校にいる大人でもよいという認識にしていくことなどが考えられる。来年度はインクルーシブ支援員や、エデュケーションアシスタントなどの人材も増えることから、これらの2点について解消していくことができるのではないかと考えられる。

【広報・情報提供】

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)	地域アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)
区立中学校に関する情報が提供されている。	32% → 56%	学校だより・学年だよりなどで、情報を提供している。	92% → 92%	学校からのお知らせ(学校だより)などで、学校の様子分かる。	100% → 97%
学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。	37% → 47%	「学び舎」の区立(幼稚園)中学校について情報が提供されている。	41% → 45%	学び舎の活動について、十分な情報が提供されている。	67% → 62%
		学校公開や保護者会などで、児童の様子分かる。	92% → 92%	学校公開や道徳授業地区公開講座などで、学校の様子分かる。	88% → 88%
		ホームページやメールなどで情報を提供している。	78% → 79%	ホームページに、学校からのお知らせや学校の生活の様子分かる情報が掲載されている。	61% → 87%
		地域に情報を発信している。	62% → 64%	学校運営委員会が、よく役割を果たしている。	61% → 69%

- ◎ 「学び舎」の活動については、一昨年度までの制限があげ、活動を行ったことで肯定的評価が上昇した。今後もICTを積極的に活用し、「学び舎」の活動を発信し、アピールしていくことが必要である。
- ◎ 今年度、学校公開や道徳授業地区公開講座などで、「児童の様子や学校の様子分かる」項目で、保護者、地域とも肯定的評価が上昇した。学校公開など、保護者が参観する機会が増えてきたことが、良い影響を与えていると考えられる。また、「学校運営委員会が、よく役割を果たしている」項目で、8%上昇した。学校運営委員会の活動内容を、すぐるやプリントを活用して今後も発信していくようにする。
- ◎ 「ホームページやメールでの情報発信」の項目において、保護者・地域とも昨年度よりも肯定的評価が上昇した。昨年度の反省をもとに、日々の生活などをHPに多く発信したことが要因と考えられる。今後も、学校行事だけではなく、授業の様子など、定期的に情報を発信していくことが必要だと考える。

【学校の安全】

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)	地域アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)
登下校のきまりや交通ルールを守っている	81% → 91%	安心・安全な学校づくりを進めている。	77% → 76%	安心・安全な学校づくりを進めている。	88% → 92%
		避難訓練やセーフティ教室などで、安全に関する指導をしている。	94% → 95%	安全性を高めようと、地域と協力している。	85% → 82%
		自然災害時の対応を提供している。	82% → 78%	「学校と保護者・地域が協力して防犯・交通安全に取り組んでいる」	97% → 84%

- ◎ 児童の「登下校のきまりや交通ルールを守っている」の肯定的回答81%から91%に上昇した。児童の交通ルールへの意識は高まっていると考えられる。今後も、教員が定期的の下校指導として校外を見回ることを継続して行う。児童の安全に対する意識をさらに高めるために、家庭・地域・学校が協力して、継続的に児童の安全を見守っていく必要がある。
- ◎ 地域の「安全性を高めようと協力している」「協力して取り組んでいる」の項目では、どちらも肯定的評価が下がった。災害に対する対策等は地域とのつながりや保護者の理解も大変重要となってくるので、今後、学校から保護者や地域に対して活動の報告や、協力して行える安全指導などに取り組んでいく必要がある。

【学校生活全般】

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)	地域アンケート	肯定的回答の変化 (R5→R6)
学校生活は楽しい。	80% → 88%	学校生活は、子どもにとって楽しい。	89% → 89%	学校と保護者・地域が協力して防犯・交通安全に取り組んでいる。	97% → 84%
学校が好き	63% → 77%	子どもは家庭で自主的に勉強している。	64% → 56%	地域の意見に対して、ていねいに説明・対応している。	82% → 69%
家庭でe-ラーニングでの学習をしている	63% → 64%	教育活動に満足している。	78% → 79%		
塾で学習している	62% → 69%	「すぐー」を活用して、連携がとれている。	88% → 83%		

- ◎ 「学校生活は楽しい」の項目では、昨年度と比べ、児童・保護者ともに9割に近づく高評価となった。友達と関わることで楽しく学校生活を送ることができるように教育活動を工夫して行っているが、児童や保護者のニーズに応えられるよう、より創意工夫を凝らし、関わり合いながら学習を進める必要があると考える。
- ◎ 地域の「丁寧に説明・対応している」が大きく下がった。行事などにおける事前配慮が足りないと感じているのではないか。事前周知をさらに改善していく必要がある。
- ◎ 児童の「e-ラーニングでの学習をしている」の項目では、昨年度よりも大きく減少した。家庭で積極的に学習に活用するよう計画を見直す。また半数以上の児童が「塾で学習している。」と回答している。保護者の「子どもは家庭で自主的に勉強している」の項目では、肯定的回答は昨年度よりも大きく下がった。学校や塾での宿題はやらされてやっているが、自主的な学習を家でやっているとは言えないという評価ではないか。中学校に行けば、毎日の宿題ではなく計画的な学習の姿勢が大切であり、少しずつその力を付けていってほしいという願いも込められていると考えられる。

【提言】

- ① 6年間を通して、なりたい自分や生き方について考える授業をキャリア教育を通して行い、保護者に分かりやすく伝える。
- ② 将来に向けて、中学校を見据えた学習方法、自ら学ぶ姿勢の育成のために、家庭学習や授業の方法を改善、工夫する。
- ③ 交通ルールの徹底として、特に危険と思われることについて今まで以上に丁寧に指導し、実行させる。

*以上3点を令和6年度学校関係者評価委員会として提言する。